

12th Oka Symposium

下記の通り第 12 回岡シンポジウムを開催致しますのでご案内申し上げます。

上田哲生 角田秀一郎 松澤淳一 吉川謙一

記

日時：2013 年 12 月 14 日 (土)～15 日 (日)

場所：奈良市北魚屋西町 奈良女子大学理学部数学教室 新 B 棟 4 階 階段教室

プログラム：

12 月 14 日 (土)

13:30 - 15:30 鈴木昌和 (九州大学名誉教授)

タイトル：コンピュータによる数式認識のはなし

アブストラクト：発表者がこれまでに開発してきた数式を含む文書認識システムの現状をデモを交えて紹介し、次に数式認識の実用化のために導入した最適化手法を概説する。また、ニーズと技術の両面から関連する話題についても触れたい。

16:00 - 18:00 向井茂 (京都大学数理解析研究所)

タイトル：K3, Enriques 曲面とルート系について

アブストラクト：K3 曲面に symplectic に作用する有限群が Mathieu 群を用いて分類されていますが、近年、ルート系のおかげで、Enriques 類似 (大橋氏との共同研究) も見つかりました。講演では $A_5 + A_5$ 型の Enriques 曲面の例等と共に紹介します。

18:30 - 20:30 夕食会

12 月 15 日 (日)

10:30 - 12:30 二木昭人 (東京大学大学院数理科学研究科)

タイトル：ケーラー・アインシュタイン計量と K 安定性

アブストラクト：ケーラー・アインシュタイン計量の存在と K 安定性の同値性に関する Chen-Donaldson-Sun, Tian の証明の概略を解説する。この同値性が予想された背景と、実際に証明された方法とを述べる予定である。

14:00 - 16:00 山口博史 (滋賀大学名誉教授)

タイトル：領域の変動に関する 2 階変分公式と擬凸状域

アブストラクト：複素変数 $t \in B$ と共に平面領域 $D(t)$ (或いは複素多様体 M の領域 $R(t)$) が歪曲しながら動くとき、各 $D(t)$ (或いは $R(t)$) の定める関数論的に意味ある関数 $f(t, z)$ 及び量 $m(t)$ に関しての 2 階変分 $\frac{\partial^2 f(t, z)}{\partial t \partial \bar{t}}$ 及び $\frac{\partial^2 m(t)}{\partial t \partial \bar{t}}$ の公式を述べる。そして total space $\mathcal{D} = \cup_{t \in B} (t, D(t)) \subset B \times \mathbb{C}_z$ (或いは $\mathcal{R} = \cup_{t \in B} (t, R(t)) \subset B \times M$) が擬凸状域をなすとき、2 階変分公式を用いて、いくつかの関数論的結果を述べる。

なお、夕食会の会場は未定ですが、ご参加頂ける方は 12 月 6 日 (金) までに下記にご一報頂ければ幸いです。

奈良市北魚屋西町 奈良女子大学理学部数学教室 松澤淳一

(Phone: 0742-20-3361, e-mail: matsuzawa@cc.nara-wu.ac.jp)